

3-1 調査結果：子どもの生活状況調査

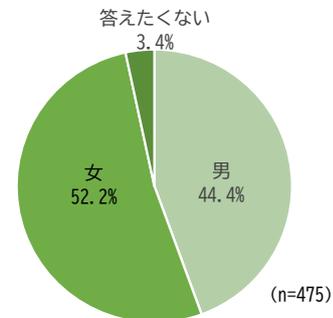
本章では、小学校5年生、中学校2年生を対象とした「子どもの生活状況調査」の結果を示す。

(1) 回答者のこと

- 回答者の学年は、小学5年生が54.1%、中学2年生が45.9%となっている。
- 居住地区は、最も多いのが「美南ガ丘小学校区」で25.9%、次いで「東小学校区」が19.8%、「水明小学校区」が19.4%となっている。
- 一緒に住んでいる人は、「お母さん」が97.1%、次いで「お父さん」が86.9%となっている。

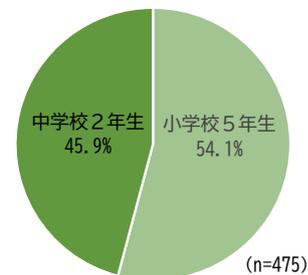
図表 1 性別

	人数	割合(%)
男	211	44.4
女	248	52.2
答えたくない	16	3.4
合計	475	100.0



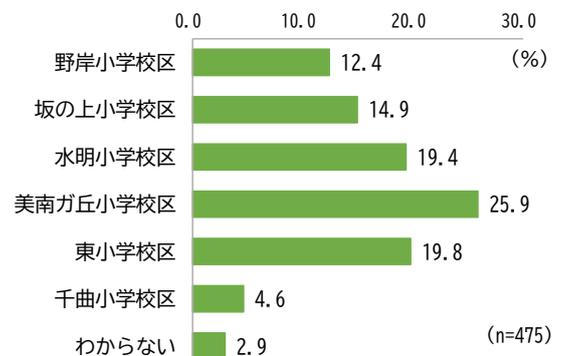
図表 2 学年

	人数	割合(%)
小学校5年生	257	54.1
中学校2年生	218	45.9
合計	475	100.0



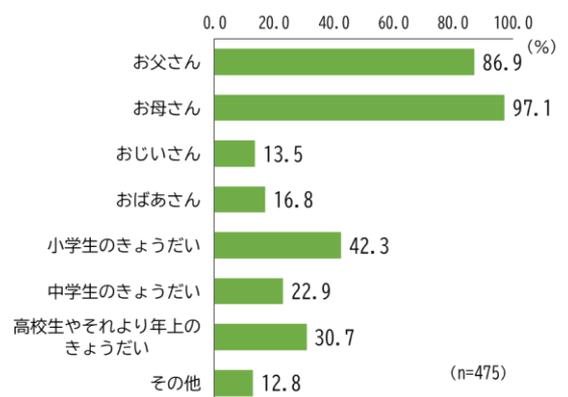
図表 3 住んでいる地区

	人数	割合(%)
野岸小学校区	59	12.4
坂の上小学校区	71	14.9
水明小学校区	92	19.4
美南ガ丘小学校区	123	25.9
東小学校区	94	19.8
千曲小学校区	22	4.6
わからない	14	2.9
合計	475	100.0



図表 4 いっしょに住んでいる人 [複数回答]

	人数	割合(%)
お父さん	413	86.9
お母さん	461	97.1
おじいさん	64	13.5
おばあさん	80	16.8
小学生のきょうだい	201	42.3
中学生のきょうだい	109	22.9
高校生やそれより年上のきょうだい	146	30.7
その他	61	12.8
回答者数	475	

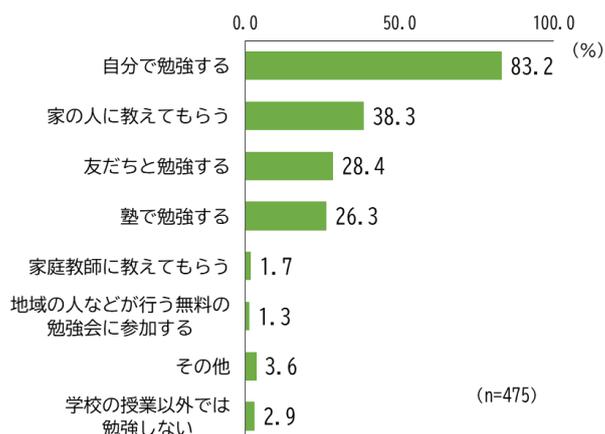


(2) ふだんの生活や勉強等の状況

- 授業以外にしている勉強は、「自分で勉強する」が 83.2%を占める。次いで「家の人に教えてもらう」38.3%、「友だちと勉強する」28.4%となっている。
- 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間は、平日、学校がない日（土・日・祝日）ともに「30分～1時間くらい」の割合が最も高くなっている。

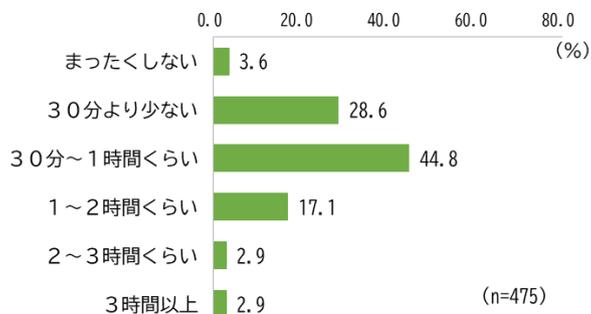
図表 5 ふだん学校の授業以外にどのように勉強しているか [複数回答]

	人数	割合(%)
自分で勉強する	395	83.2
家の人に教えてもらう	182	38.3
友だちと勉強する	135	28.4
塾で勉強する	125	26.3
家庭教師に教えてもらう	8	1.7
地域の人などが行う無料の勉強会に参加する	6	1.3
その他	17	3.6
学校の授業以外では勉強しない	14	2.9
回答者数	475	



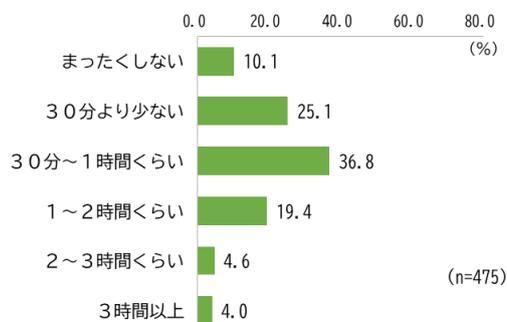
図表 6 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がある日（月～金曜日）

	人数	割合(%)
まったくしない	17	3.6
30分より少ない	136	28.6
30分～1時間くらい	213	44.8
1～2時間くらい	81	17.1
2～3時間くらい	14	2.9
3時間以上	14	2.9
合計	475	100.0



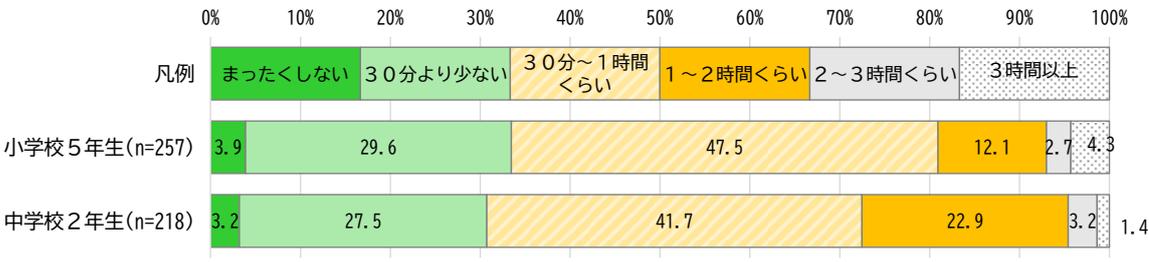
図表 7 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がない日（土・日曜日・祝日）

	人数	割合(%)
まったくしない	48	10.1
30分より少ない	119	25.1
30分～1時間くらい	175	36.8
1～2時間くらい	92	19.4
2～3時間くらい	22	4.6
3時間以上	19	4.0
合計	475	100.0

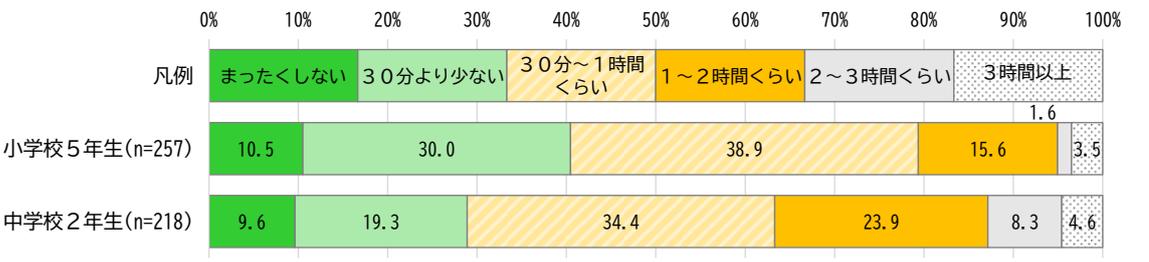


• 学年別に学校の授業以外の1日あたりの勉強時間をみると、「まったくしない」の割合は変わらないが、中学生になると「1～2時間くらい」の割合が高くなり、勉強時間が伸びている。

図表 8 学年別 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がある日（月～金曜日）



図表 9 学年別 学校の授業以外の1日あたりの勉強時間 学校がない日（土・日曜日・祝日）

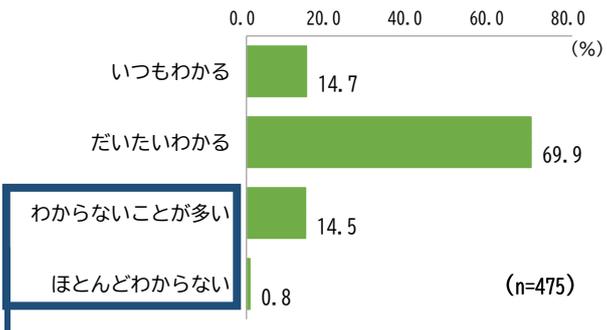


(3) 学校の授業の理解度

• 学校の授業については、「いつもわかる」「だいたいわかる」があわせて84.6%となっている。一方で、「わからないことが多い」「ほとんどわからない」はあわせて15.3%となっている。
 • 「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と答えた人のうち、いつごろから授業がわからなくなったかをきくと、「小学5・6年生のころ」・「中学1年生のころ」の割合が高く、それぞれ32.9%・28.8%（合計で61.7%）となっている。

図表 10 学校の授業の理解度

	人数	割合(%)
いつもわかる	70	14.7
だいたいわかる	332	69.9
わからないことが多い	69	14.5
ほとんどわからない	4	0.8
合計	475	100.0



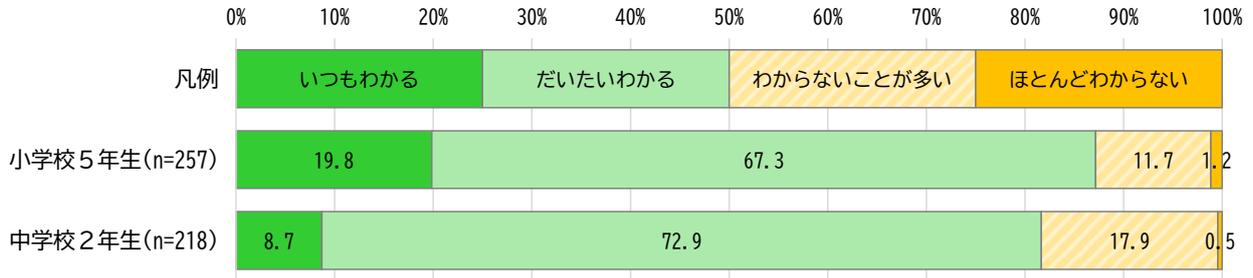
図表 11 回答対象者：授業がわからないことが多い、ほとんどわからない人
いつごろから授業がわからないか

	人数	割合(%)
小学1・2年生のころ	2	2.7
小学3・4年生のころ	16	21.9
小学5・6年生のころ	24	32.9
中学1年生のころ	21	28.8
中学2年生のころ	10	13.7
回答者数	73	100.0



• 学年別に学校の授業の理解度をみると、中学2年生で「いつもわかる」の割合が下がり、「だいたいわかる」「わからないことが多い」の割合が高くなっている。

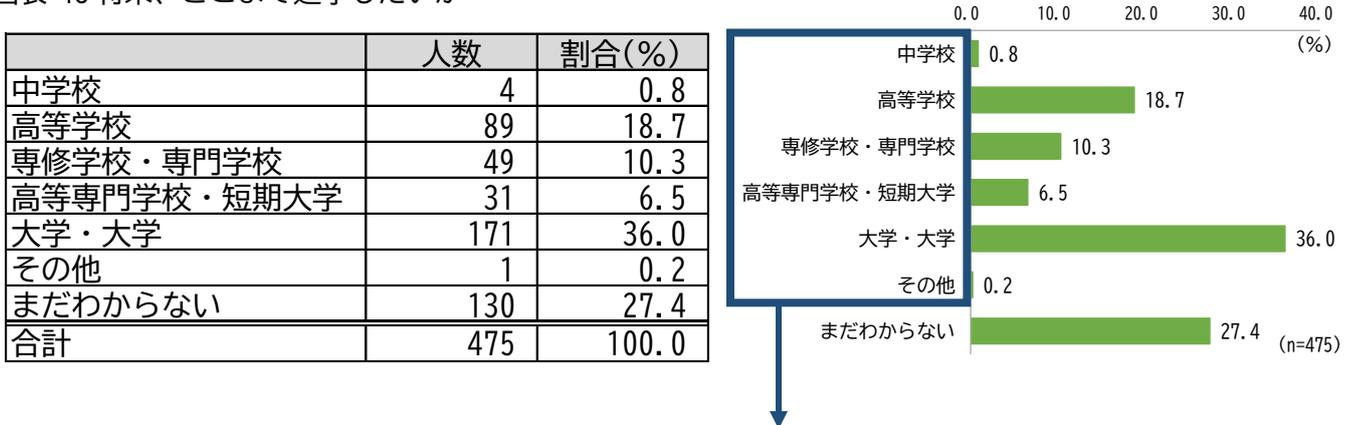
図表 12 学年別 学校の授業の理解度



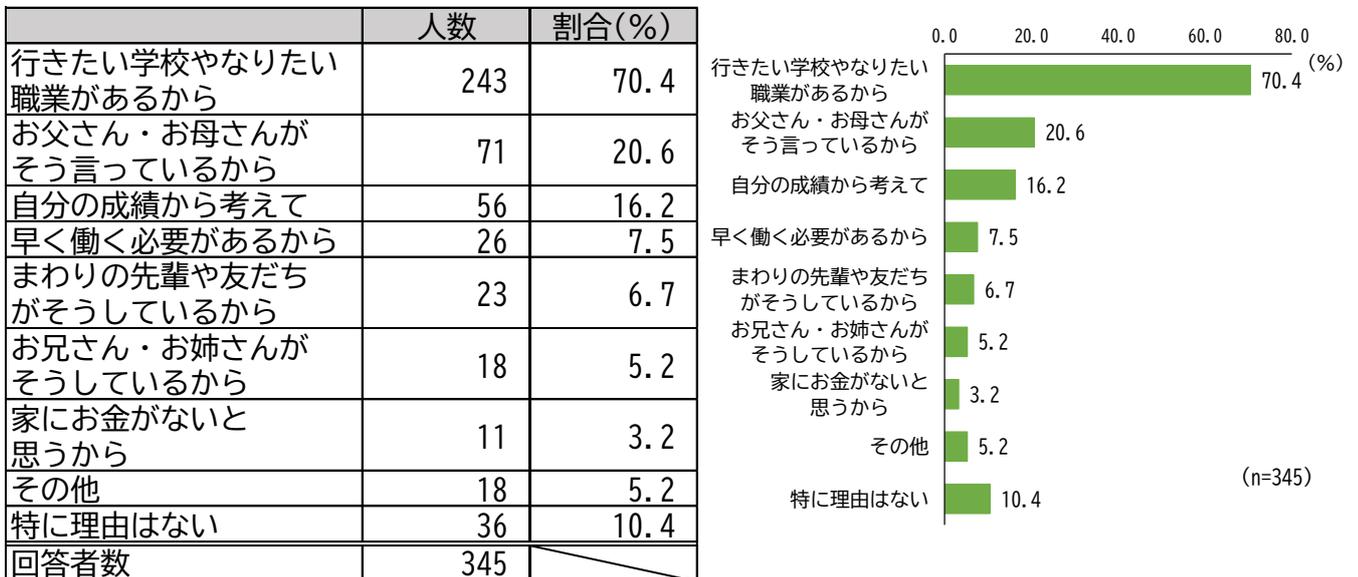
(4) 今後の進路希望

• 進学先の希望は、「大学・大学院」が36.0%と最も高く、次いで「高等学校」が18.7%となっている。
 • 進学先についての考えは「行きたい学校やなりたい職業があるから」が70.4%と最も高い。一方で、「早く働く必要があるから」(7.5%)「家にお金がないと思うから」(3.2%)、といった外的要因でやむをえず進路を判断するケースもみられる。

図表 13 将来、どこまで進学したいか



図表 14 回答対象者：進学を希望している人 進学先についての考え [複数回答]

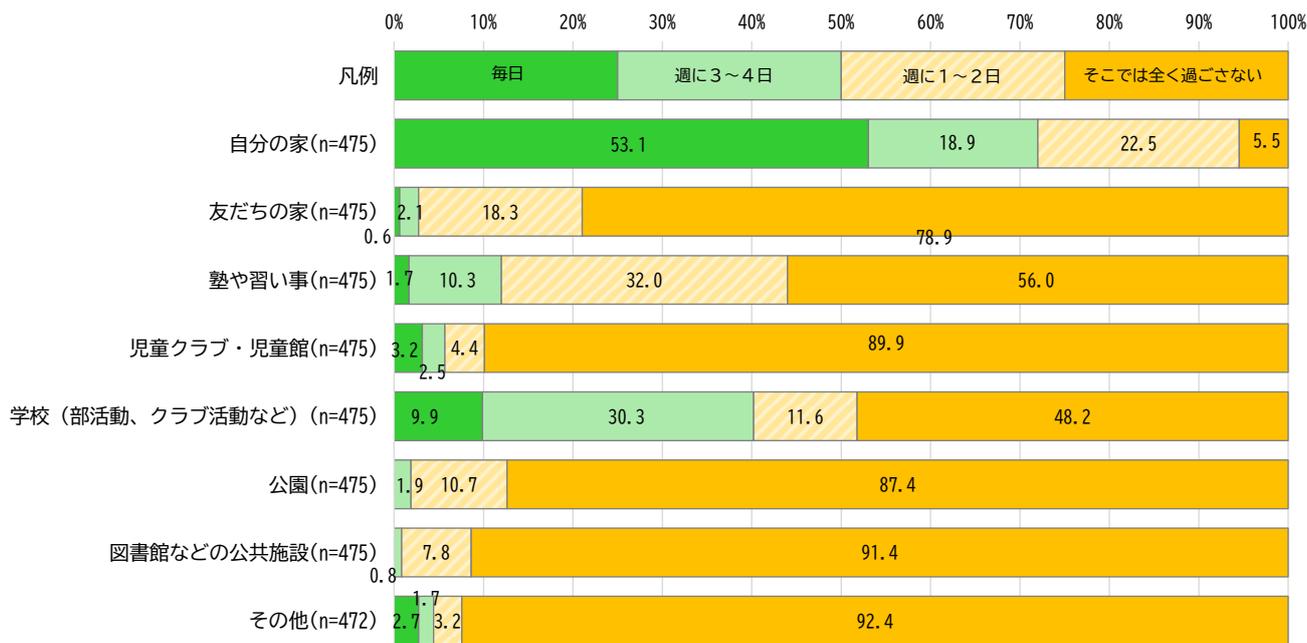


(5) 平日の放課後の過ごし方・ほっとできる場所

1) 平日の放課後の過ごし方

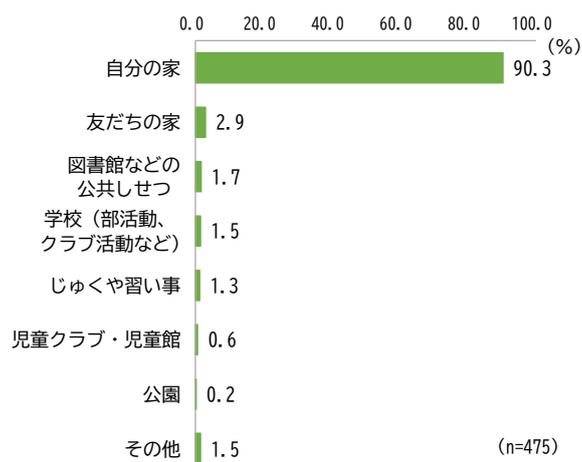
- 平日の放課後に過ごす場所をきくと、自分の家では「毎日過ごす」が53.1%である。次いで、学校（部活動、クラブ活動など）で過ごす割合も一定数見られ、頻度としては「週に3～4日」が多くなっている。
- 塾や習い事や友だちの家は「週に1～2日」の割合が高く、それぞれ32.0%、18.3%となっている。
- このうち、一番ほっとできる場所をきくと、自分の家が90.3%と大半を占める。

図表 15 平日の放課後（夕方6時くらいまで）に過ごす場所



図表 16 一番ほっとできる場所

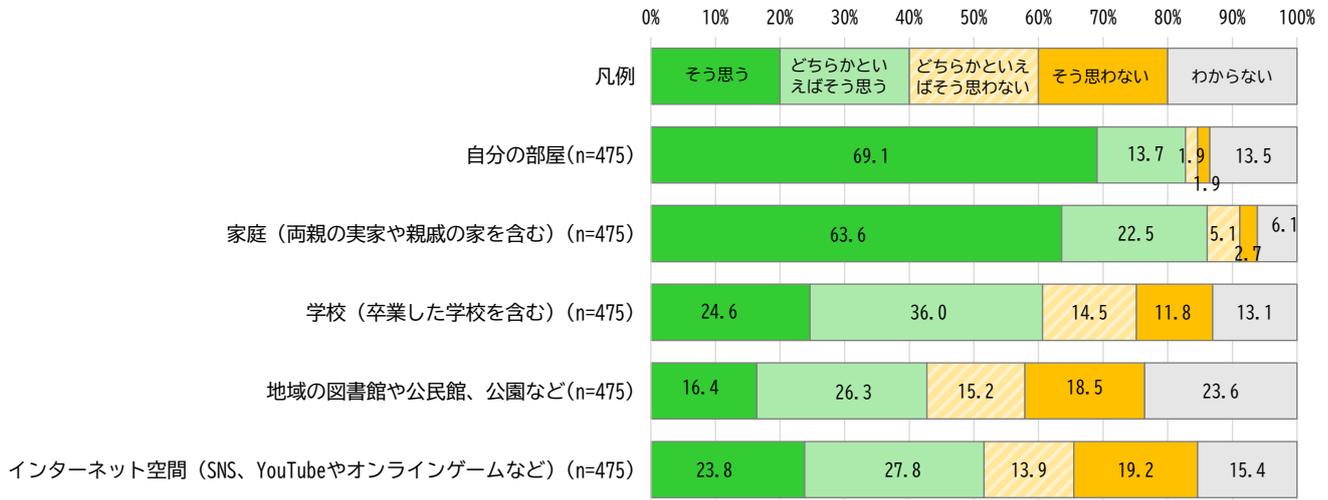
	人数	割合(%)
自分の家	429	90.3
友だちの家	14	2.9
図書館などの公共しせつ	8	1.7
学校（部活動、クラブ活動など）	7	1.5
じゅくや習い事	6	1.3
児童クラブ・児童館	3	0.6
公園	1	0.2
その他	7	1.5
合計	475	100.0



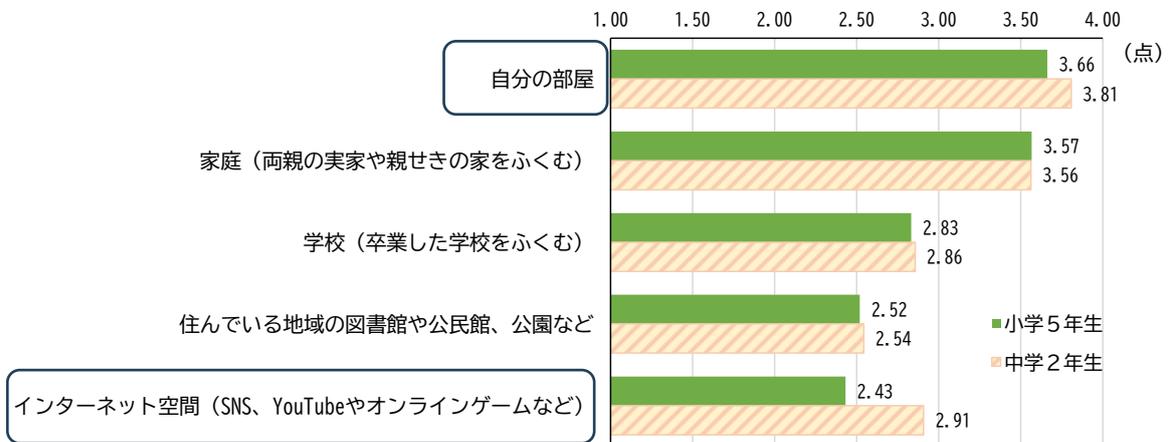
2) ほっとできる居心地のよい場所

- 提示された場所が自分の居場所になっているかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合をみると、自分の部屋、家庭は、それぞれ8割程度と高くなっている。学校は60.6%、地域の公民館や図書館、公園などは42.7%、インターネット空間は51.6%となっている。
- 学年別にみると、自分の部屋とインターネット空間は、中学2年生で、自分の居場所と捉えている傾向にある。インターネット空間は、年齢が上がるにつれて、重要な居場所になりつつある。

図表 17 自分の居場所（ほっとできる居心地のよい場所）



図表 18 学年別 自分の居場所（ほっとできる居心地のよい場所）



※5%水準で統計的検定をした結果、違いが見られた項目を囲っている

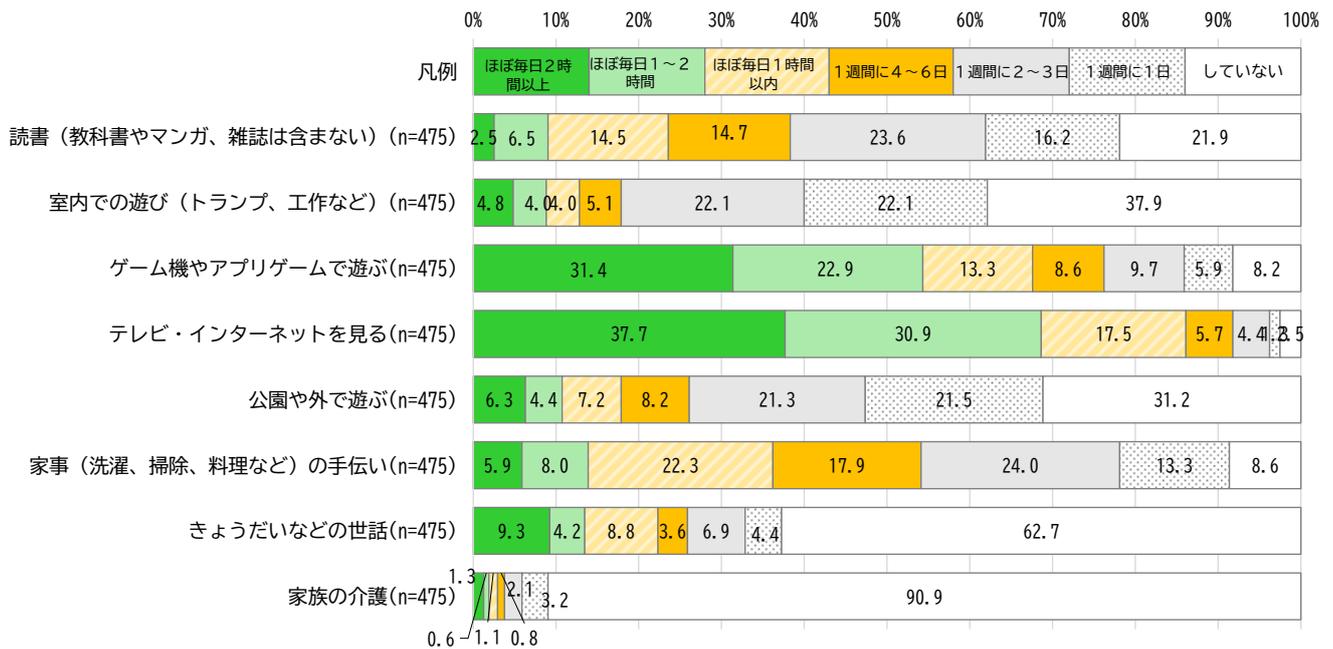
※「そう思う」4点、「どちらかといえばそう思う」3点、「どちらかといえばそう思わない」2点、「そう思わない」1点とし、「わからない」は除き得点を算出

(6) ふだんの活動、生活習慣の状況（食事、睡眠）

1) ふだんの活動にあてる時間

- 普段の活動では、テレビ・インターネットを見ること、ゲーム機やゲームアプリで遊ぶことに比較的長い時間を費やしている。毎日1時間以上の割合（「毎日1～2時間」「2時間以上」を合わせた割合）をみると、「テレビ・インターネットを見る」は68.6%、「ゲーム機やゲームアプリで遊ぶ」は54.3%となっている。
- 家族のケアをする活動をみると、毎日（2時間以上）していると答えた人の割合は、それぞれ「家事」で5.9%、「きょうだいなどの世話」で9.3%、「家族の介護」で1.3%となっている。

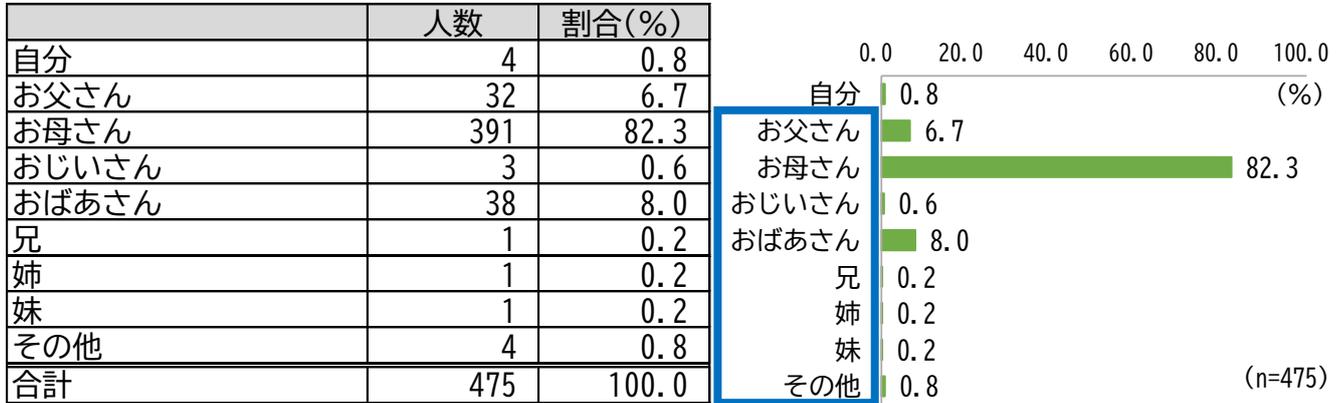
図表 19 ふだんの活動にあてる時間



2) 食事の準備

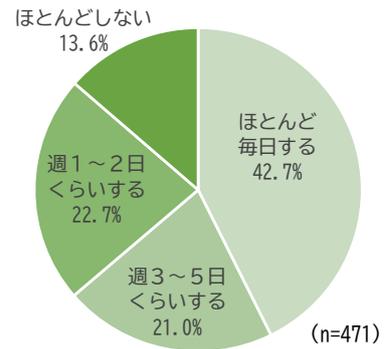
- 主に食事をつくる人は、「お母さん」が82.3%である。「自分」との回答は0.8%（回答者4名）、「兄・姉・妹」との回答は0.6%（回答者3名）である。
- 食事の準備などの手伝いをしている頻度については、「ほとんど毎日する」が42.7%と最も高く、次いで「週1～2日くらいする」が22.7%となっている。「ほとんどしない」と回答した人は13.6%となっている。

図表 20 主に食事をつくる人



図表 21 回答対象者：主につくる人「自分」以外の人
食事の準備などの手伝い

	人数	割合(%)
ほとんど毎日する	201	42.7
週3～5日くらいする	99	21.0
週1～2日くらいする	107	22.7
ほとんどしない	64	13.6
合計	471	100.0

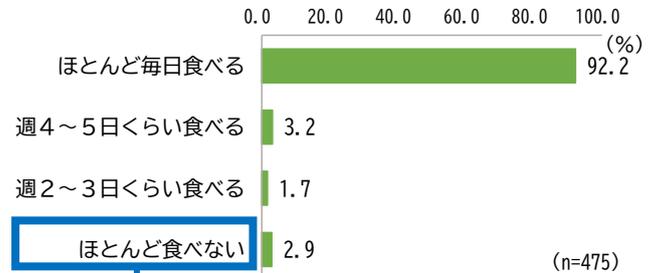


3) 朝食・夕食の状況

- 朝食を食べているかどうかについては、「ほとんど毎日食べる」が92.2%と大半を占める。一方で「ほとんど食べない」割合は2.9%となっている。
- 食べない理由としては「朝はおなかがすかないから」が64.3%と大半となっている。
- 夕食については、「ほとんど毎日食べる」が97.7%となっている。「ほとんど食べない」と回答した人はいなかった。

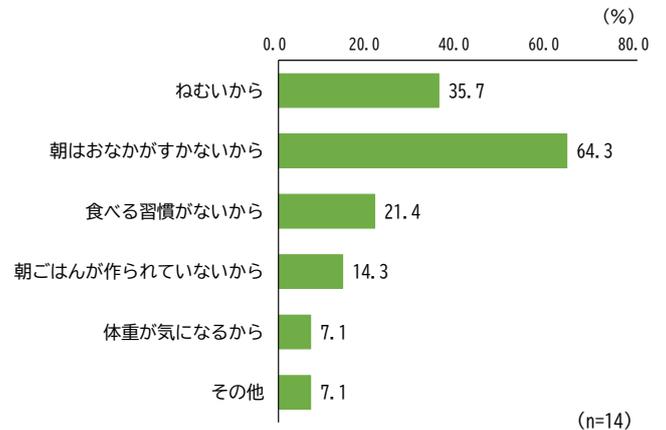
図表 22 朝食を食べるか

	人数	割合(%)
ほとんど毎日食べる	438	92.2
週4～5日くらい食べる	15	3.2
週2～3日くらい食べる	8	1.7
ほとんど食べない	14	2.9
合計	475	100.0



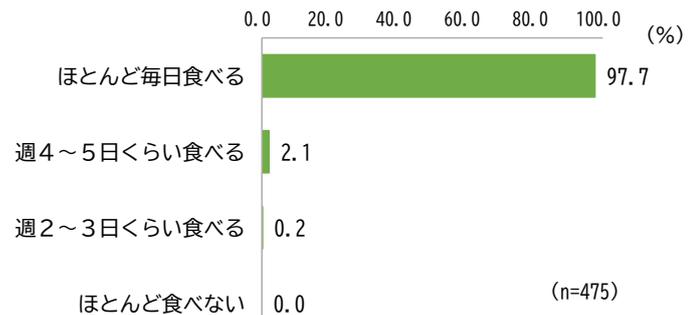
図表 23 回答対象者：朝食を食べない人
食べない理由[複数回答]

	人数	割合(%)
ねむいから	5	35.7
朝はおなかがすかないから	9	64.3
食べる習慣がないから	3	21.4
朝ごはんが作られていないから	2	14.3
体重が気になるから	1	7.1
その他	1	7.1
回答者数	14	



図表 24 夕食を食べるか

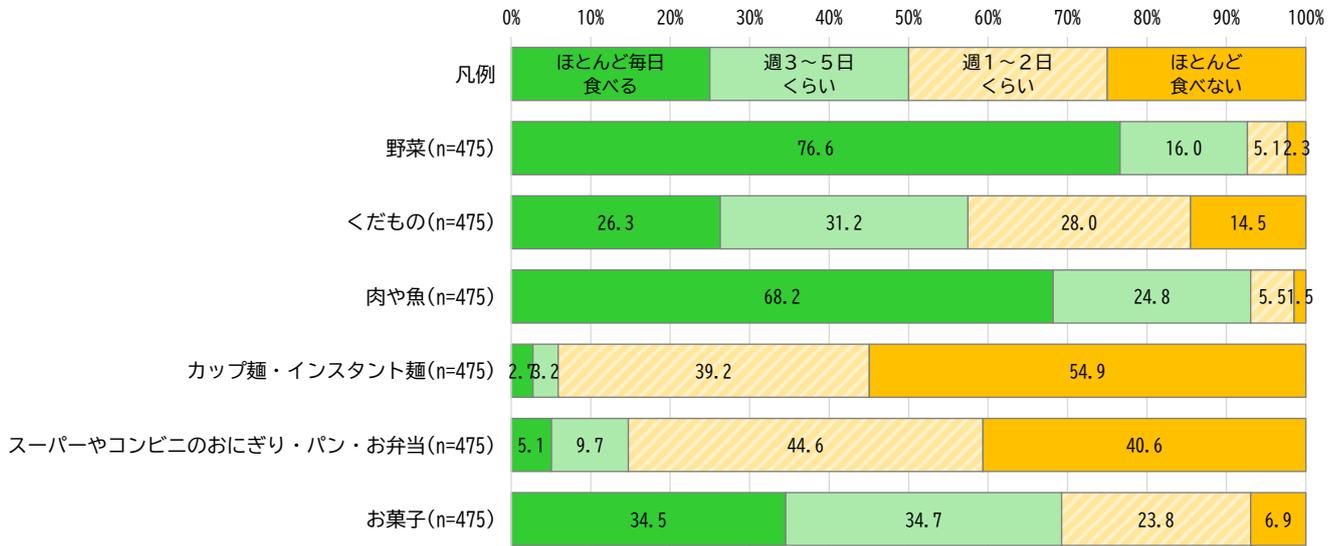
	人数	割合(%)
ほとんど毎日食べる	464	97.7
週4～5日くらい食べる	10	2.1
週2～3日くらい食べる	1	0.2
ほとんど食べない	0	0.0
合計	475	100.0



4) ふだんの食生活

- 普段の食べ物の内容をみると、野菜は「ほとんど毎日食べる」が76.6%、肉や魚は「ほとんど毎日食べる」が68.2%となっている。スーパーやコンビニのおにぎり・パン・お弁当、カップ麺・インスタント麺は、「週1～2回程度食べる」の割合が高く、それぞれ44.6%、39.2%となっている。

図表 25 ふだんの食べ物の内容（給食以外）

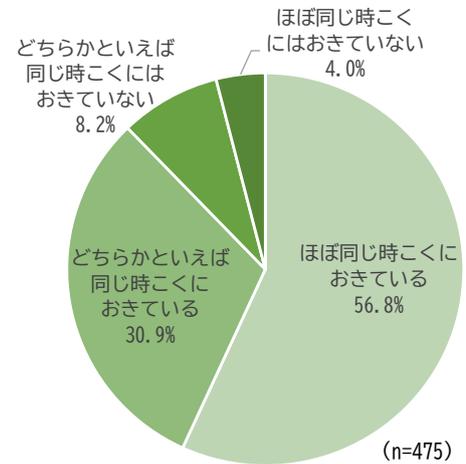


5) 睡眠時間

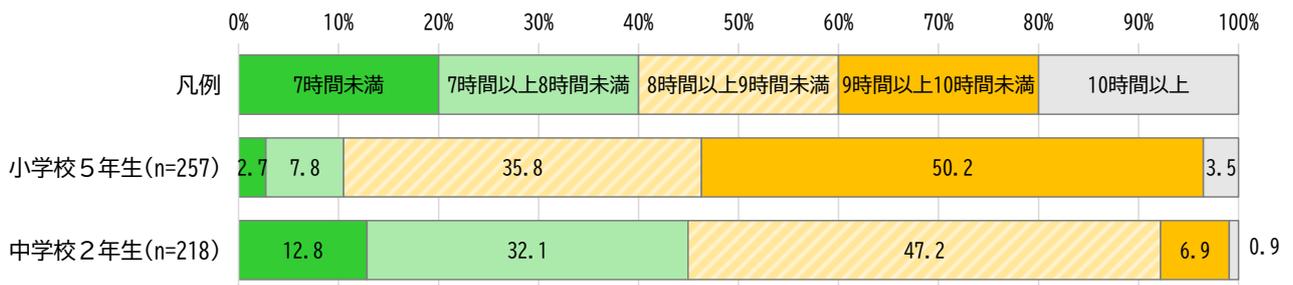
- 平日、ほぼ同じ時刻に起きるかについてきくと、「ほぼ同じ時刻におきている」と「どちらかといえば同じ時刻におきている」をあわせると 87.7%である。
- 厚生労働省「健康づくりのための睡眠ガイド 2023」によると、小学生は9～12時間、中学・高校生は8～10時間の睡眠時間が推奨されている。推奨時間以上の睡眠を取れている割合は、小学5年生、中学2年生で半数程度である。

図表 26 平日、ほぼ同じ時刻に起きるか

	人数	割合(%)
ほぼ同じ時刻におきている	270	56.8
どちらかといえば同じ時刻におきている	147	30.9
どちらかといえば同じ時刻にはおきていない	39	8.2
ほぼ同じ時刻にはおきていない	19	4.0
合計	475	100.0



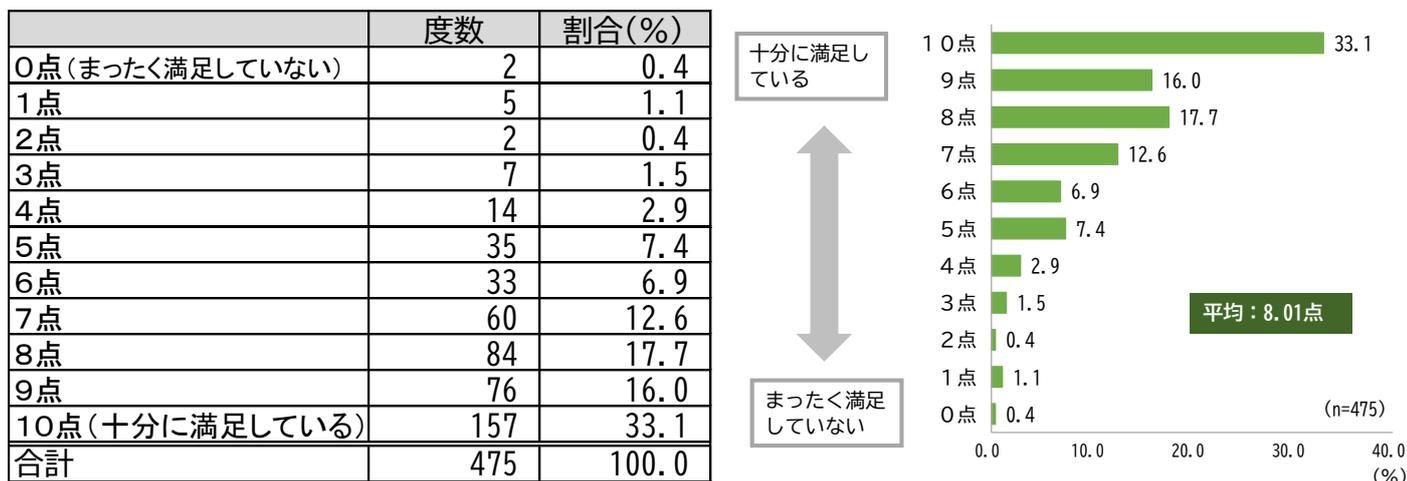
図表 27 学年別 睡眠時間



(7) 生活に関する満足度・自己肯定感

- 生活に対する満足度について、0～10点で評価をきいたところ、平均は8.01点となった。学年別にみると、小学5年生は8.23点、中学2年生は7.75点であり、中学2年生の方が低くなっている。
- 現在の自分が好きかについては、「好き」「どちらかといえば好き」をあわせて74.3%となっている。自己肯定感も中学2年生の方が、低くなっている。

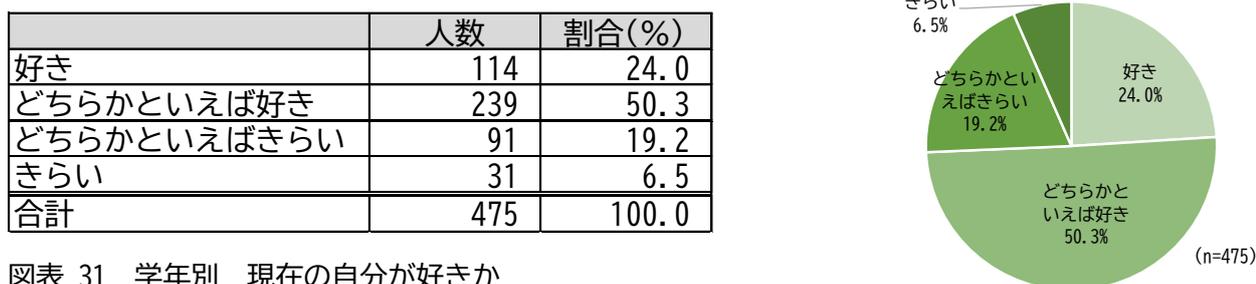
図表 28 生活に対する満足度



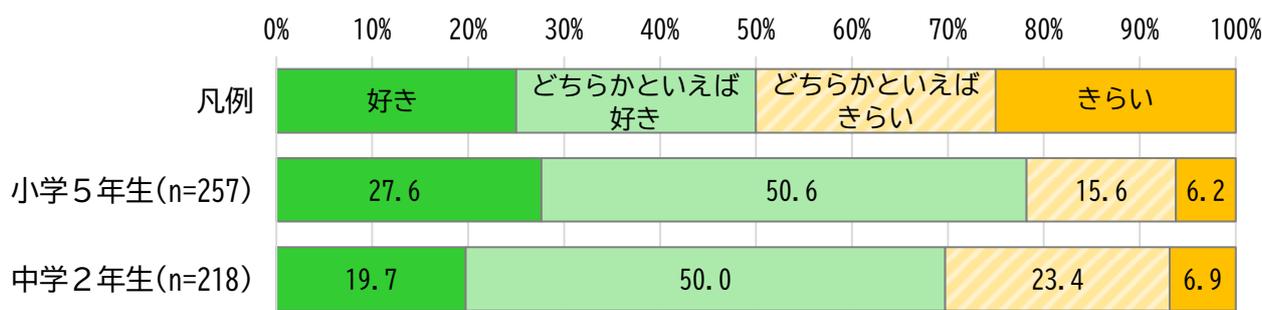
図表 29 学年別 生活に対する満足度

	単位 (%)										平均点	
	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	
全体(n=475)	0.4	1.1	0.4	1.5	2.9	7.4	6.9	12.6	17.7	16.0	33.1	8.01
小学5年生(n=257)	0.4	1.6	0.0	1.2	1.6	8.9	5.4	11.7	10.5	19.1	39.7	8.23
中学2年生(n=218)	0.5	0.5	0.9	1.8	4.6	5.5	8.7	13.8	26.1	12.4	25.2	7.75

図表 30 現在の自分が好きか



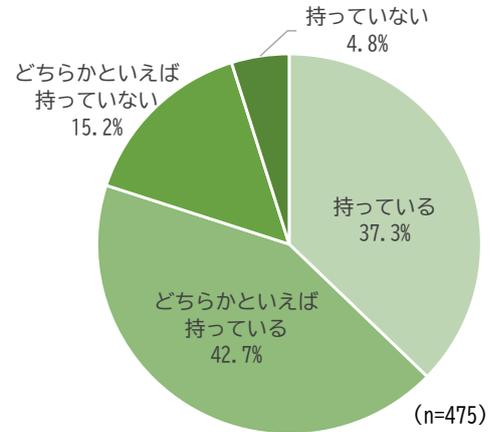
図表 31 学年別 現在の自分が好きか



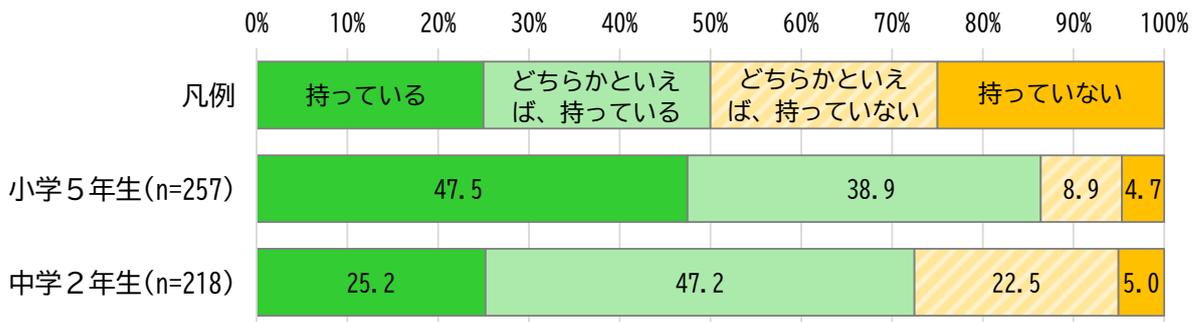
- 将来に明るい希望を持っているかについては、「持っている」「どちらかといえば持っている」をあわせた割合は80.0%となっている。中学2年生の方がその割合は下がっている。
- 学校の授業の理解度別にみると、「いつもわかる」と回答した児童・生徒ほど、将来に明るい希望を持っている割合が高くなっている。

図表 32 将来について明るい希望を持っているか

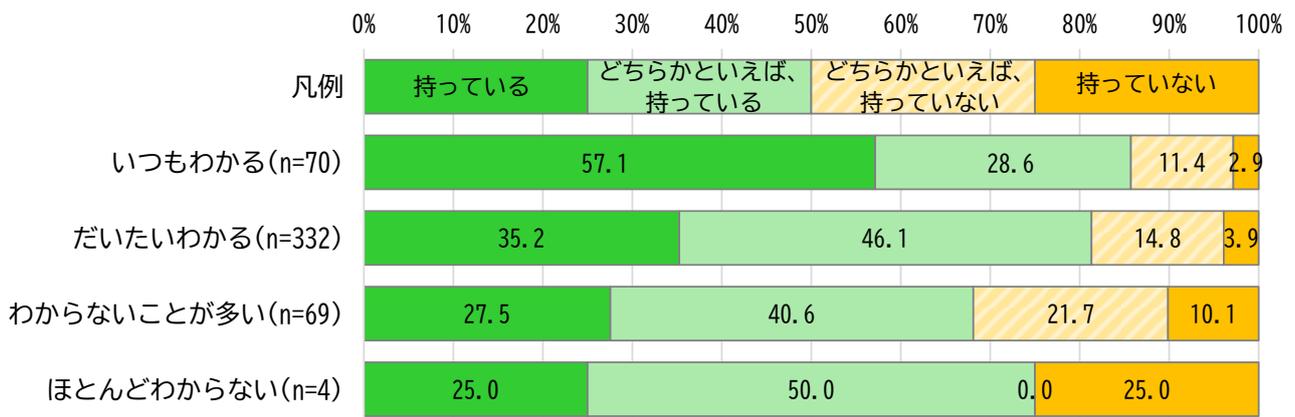
	人数	割合(%)
持っている	177	37.3
どちらかといえば、持っている	203	42.7
どちらかといえば、持っていない	72	15.2
持っていない	23	4.8
合計	475	100.0



図表 33 学年別 将来について明るい希望を持っているか



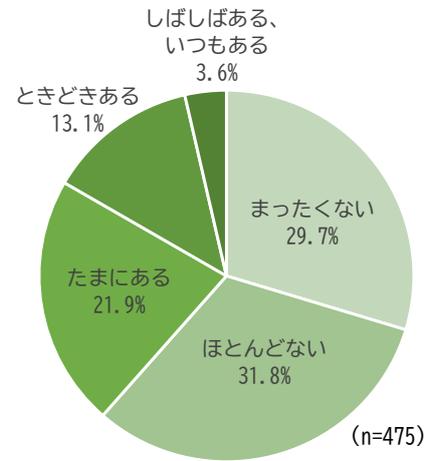
図表 34 授業の理解度別 将来について明るい希望を持っているか



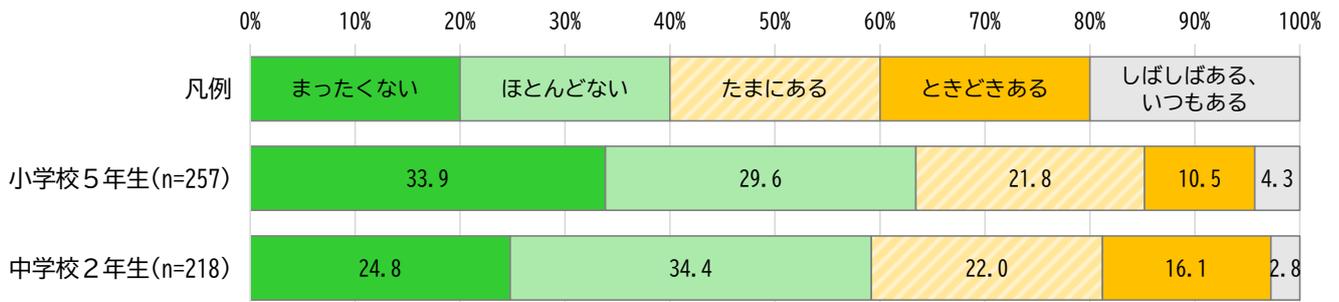
- 孤独と感ることがあるかについては、「たまにある」「ときどきある」「しばしばある、いつもある」をあわせた割合は 38.6%である。
- 中学2年生の方が「まったくない」の割合が下がっている。

図表 35 孤独と感ることがあるか

	人数	割合(%)
まったくない	141	29.7
ほとんどない	151	31.8
たまにある	104	21.9
ときどきある	62	13.1
しばしばある、いつもある	17	3.6
合計	475	100.0



図表 36 学年別 孤独と感ることがあるか

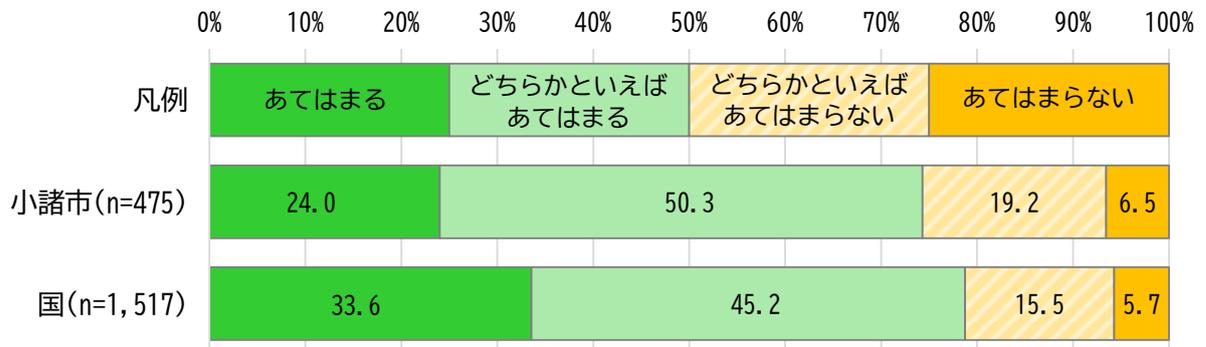


〈参考：令和4年内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」との比較〉

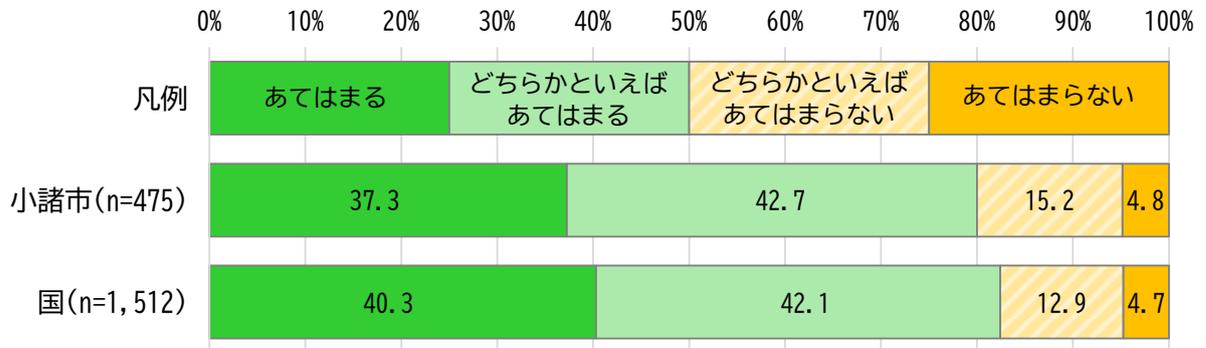
■内閣府「こども・若者の意識と生活に関する調査」実施概要
 ・実施時期……令和4年11月
 ・対象……10～14歳（令和4年4月1日現在）
 ・有効回収数……1,520

- 現在の自分が好きかについては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合は、国の78.8%に比べて小諸市は74.3%で、4.5ポイント低くなっている。
- 将来に明るい希望を持っているかについては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合は、国の82.4%に比べて小諸市は80.0%である。
- 孤独と感ずることが「たまにある」「ときどきある」「しばしばある、いつもある」の合計割合は、国の24.4%に比べて小諸市は38.6%で、14.2ポイント高くなっている。

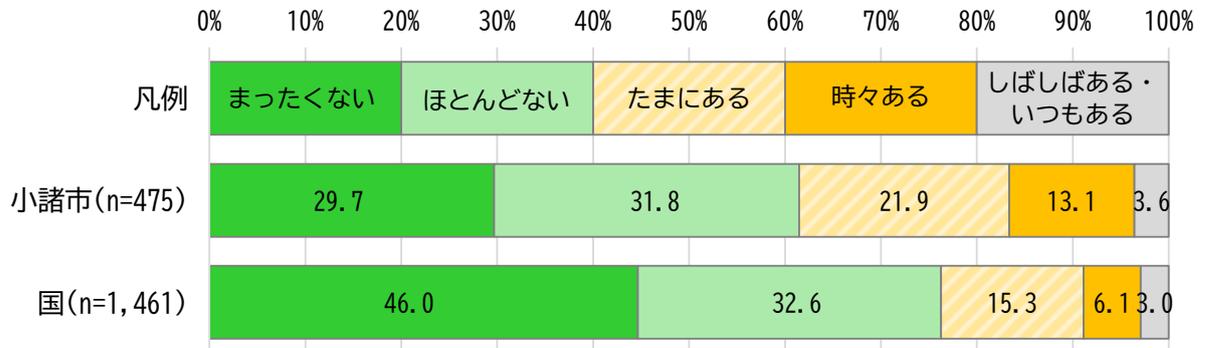
○現在の自分が好きか



○将来について明るい希望を持っているか



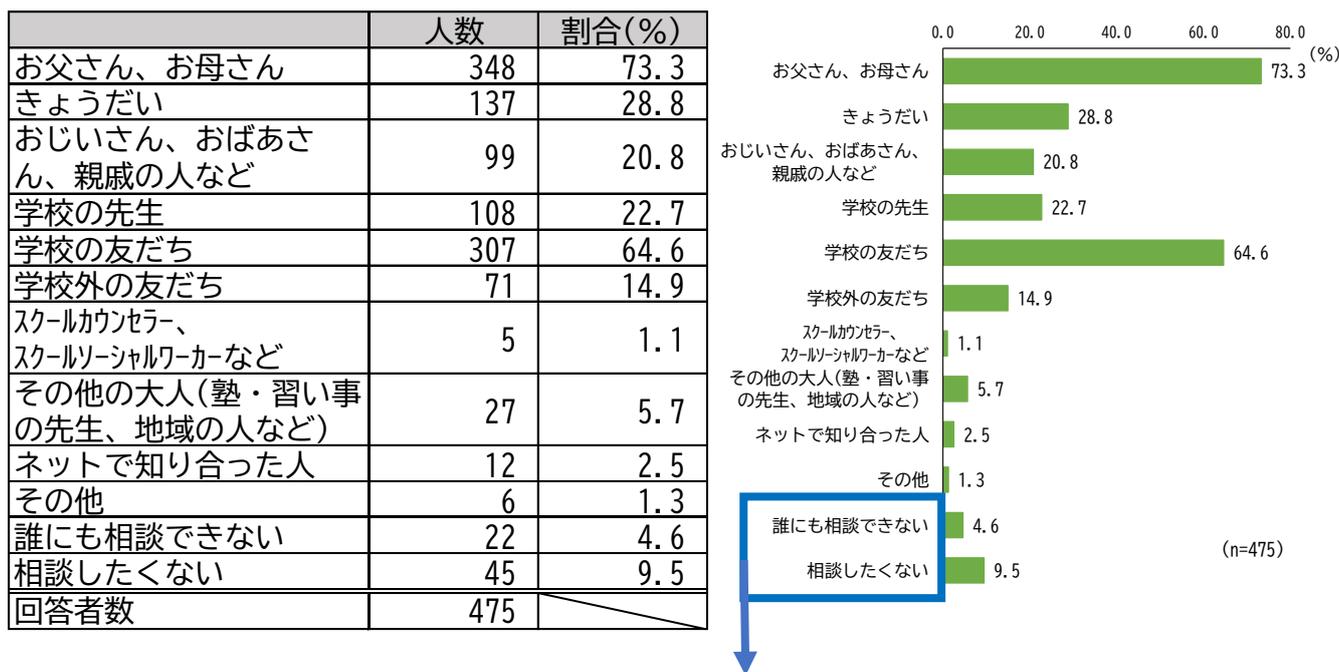
○孤独と感ずることがあるか



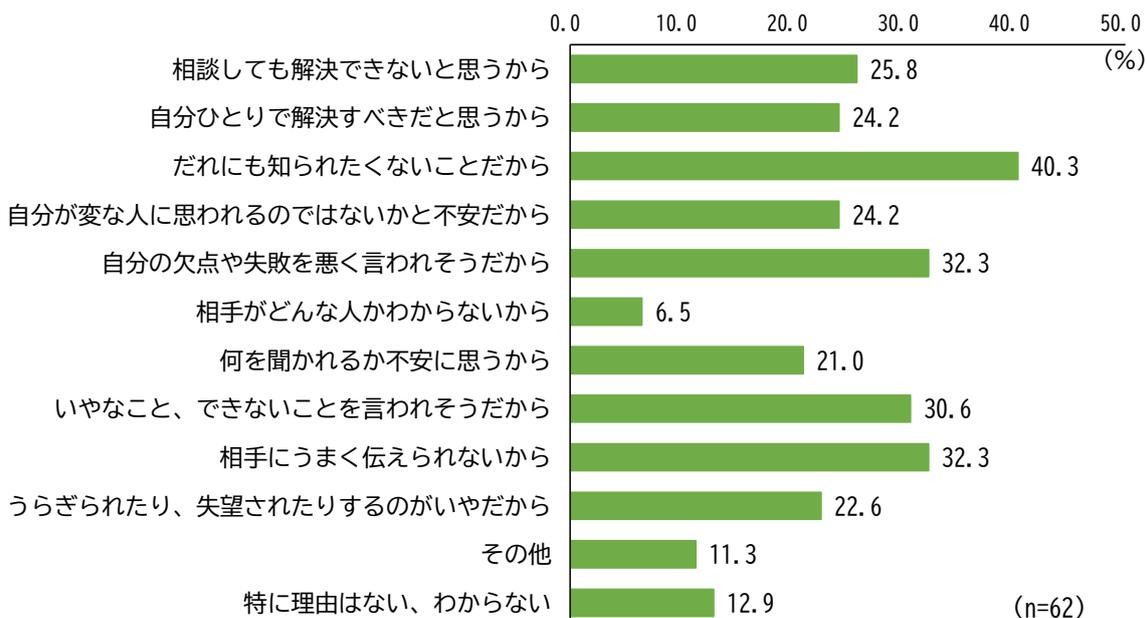
(8) 相談できる場所

- 相談できると思う人は、「親」が73.3%と最も高く、次いで「学校の友だち」が64.6%となっている。一方「だれにも相談できない」「相談したくない」はあわせて14.1%である。
- 相談できない/したくない理由としては、「だれにも知られたくないことだから」が40.3%と最も高くなっている。これに次ぐのが「自分の欠点や失敗を悪く言われそうだから」「相手にうまく伝えられないから」「いやなこと、できないことを言われそうだから」となっている。

図表 37 相談できると思う人[複数回答]



図表 38 回答対象者：だれにも相談できない、相談したくない人
相談できない/相談したくない理由[複数回答]



(9) 普段の考え方

【情緒】

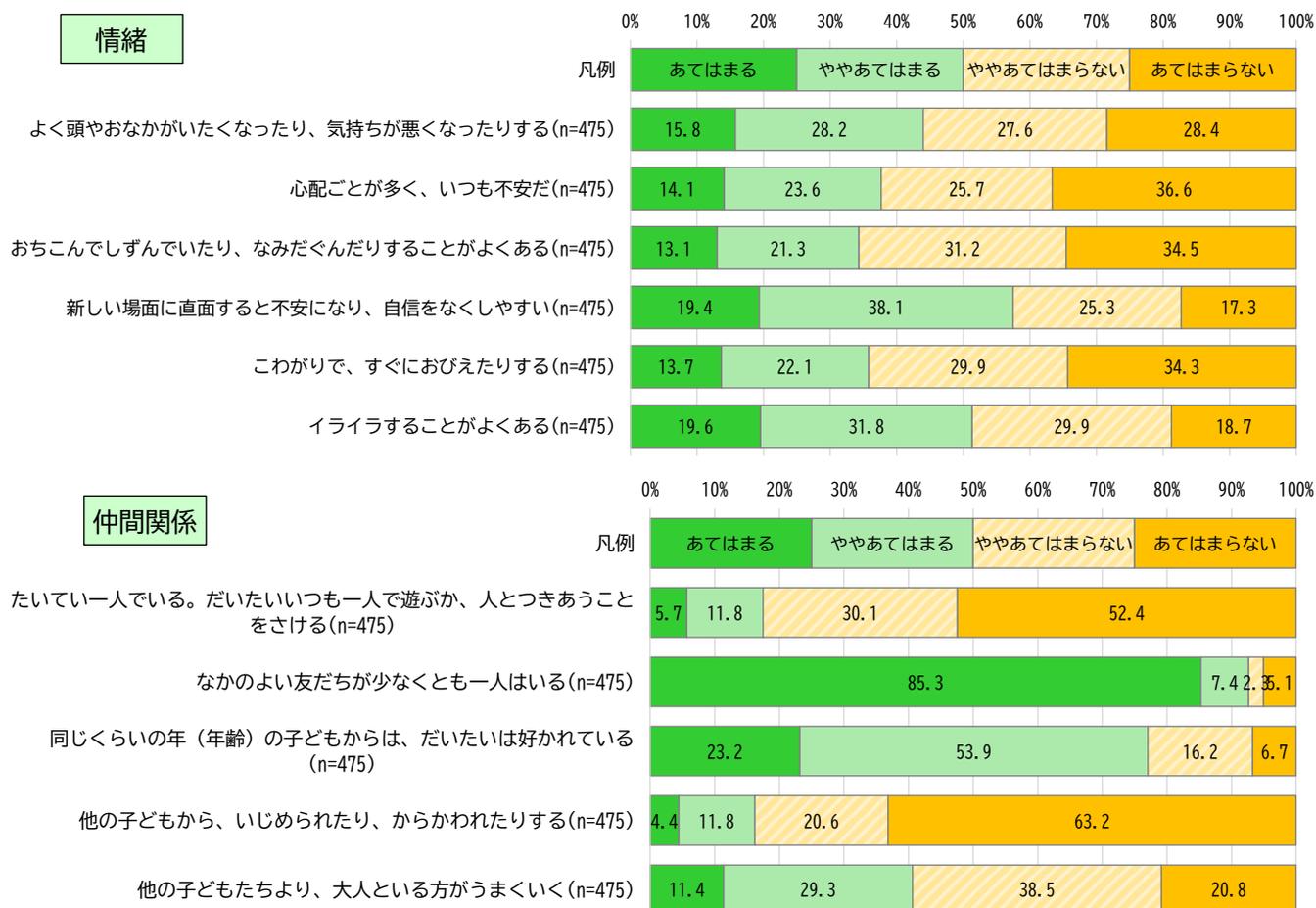
- 情緒面では、ポジティブな傾向とネガティブな傾向が同程度みられるが、ややポジティブな傾向となっている。一方、ネガティブな傾向（「あてはまる」「ややあてはまる」）の割合が高いのは「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」「イライラすることがよくある」で、それぞれ 57.5%、51.4% となっている。

【仲間関係】

- 「仲のよい友だちが少なくとも一人はいる」では、「あてはまる」割合は 85.3% である。また「同じくらいの年の子どもからは、だいたい好かれている」では、「ややあてはまる」が 53.9%、「あてはまる」と合わせると 77.1% となっている。
- 仲間関係のネガティブな傾向についてみると、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が高いのは「他の子どもたちより、大人という方がうまくいく」で、40.7% となっている。

※この項目は、SDQ (Strengths and Difficulties Questionnaire: 子どもの強さと困難さアンケート) に基づき、25 の項目のうち、「情緒」「仲間関係」「向社会性」の3観点に関する 16 項目を調査項目とした。なお、SDQ は親が子どもを評価する調査であることに留意が必要である。

図表 39 普段の考え方

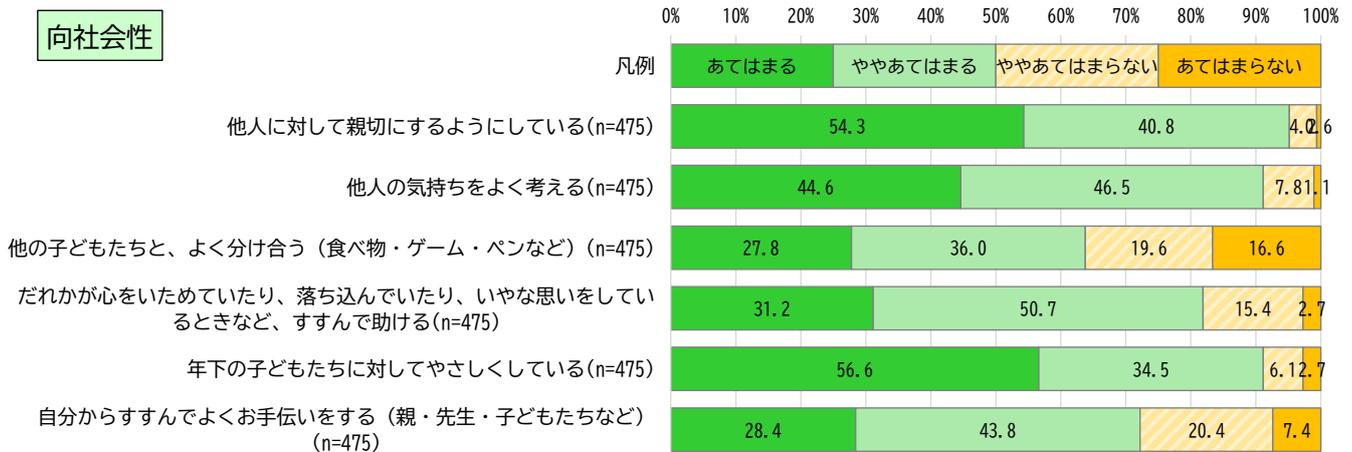


【向社会性】

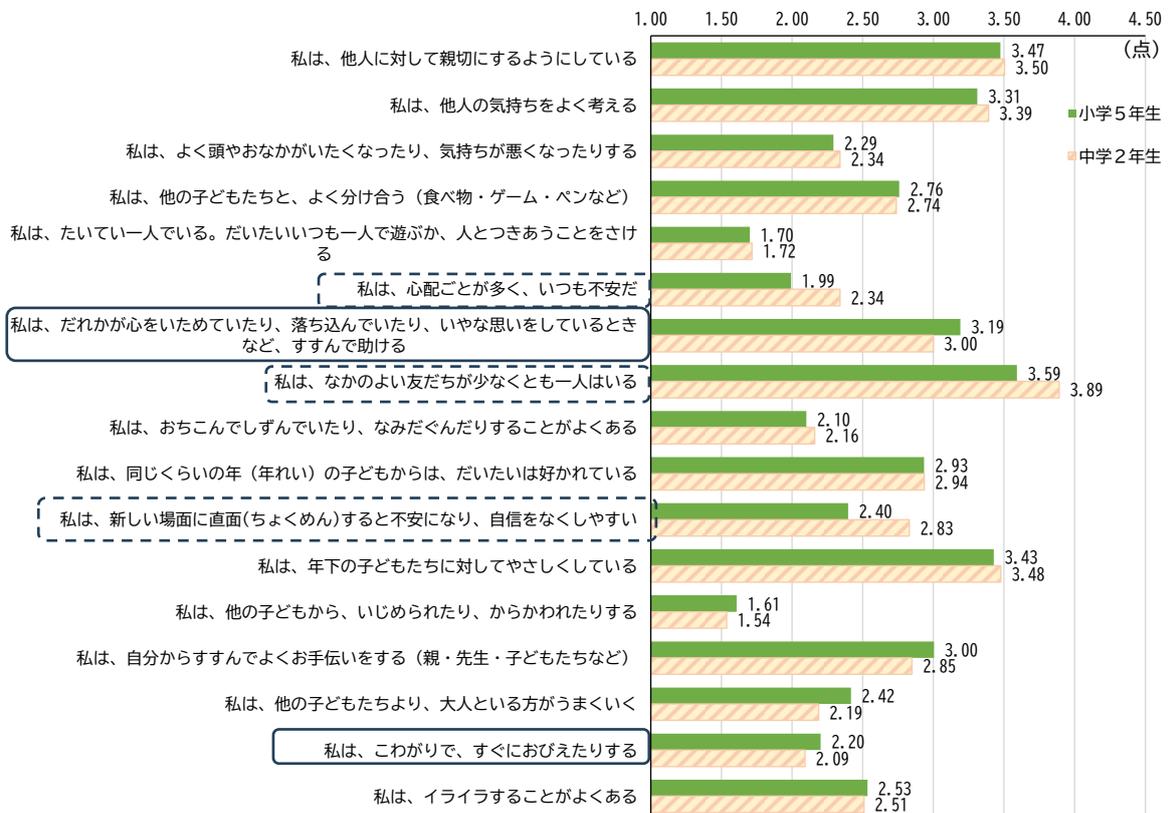
- 向社会性については、いずれもポジティブな傾向にある。「あてはまる」「ややあてはまる」をあわせた割合が特に高いのは「他人に対して親切にしているようにしている」で95.1%となっている。一方で肯定的な割合が比較的低いのは、「他の子どもたちと、よく分け合う」（合計63.8%）、「自分からすすんでよくお手伝いをする」（合計72.2%）などとなっている。

【学年別の傾向】

- 小学5年生で得点が高いのは「だれかが心をいためていたり、落ち込んでいたり、いやな思いをしているときなど、すすんで助ける」「自分からすすんでよくお手伝いをする」などであり、中学2年生で高い項目は「心配ごとが多く、いつも不安だ」「私は、なかのよい友だちが少なくとも一人はいる」「新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい」である。



図表 40 学年別 普段の考え方

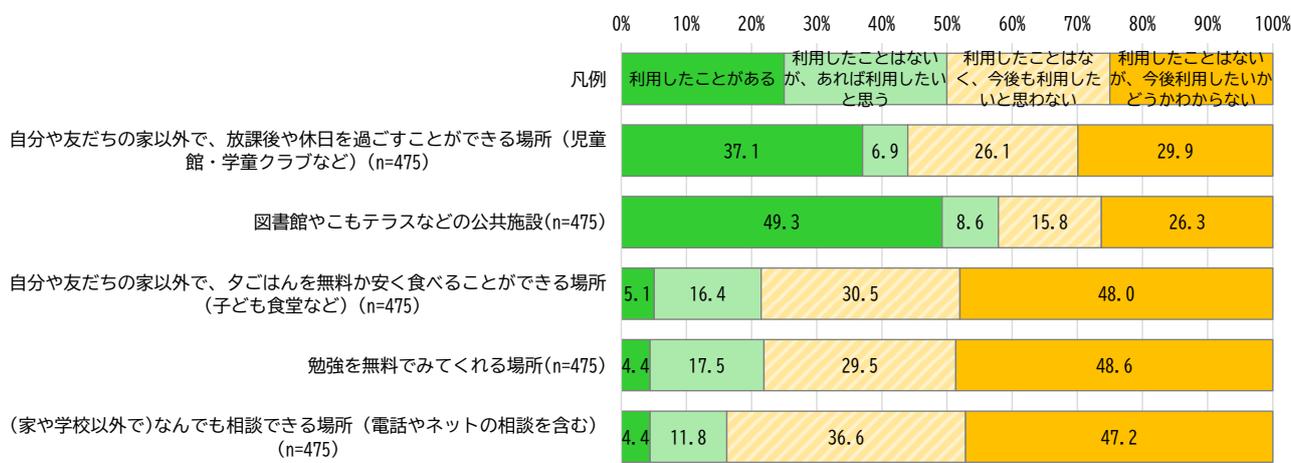


□…小学5年生で高い項目、 []…中学2年生で高い項目
5%水準で統計的検定をした結果、学年で違いが見られた項目を囲っている

(10) 利用したことがある場所

- 提示した施設・サービスのうち、利用したことがあるものは「図書館やこもテラスなどの公共施設」が49.3%、次いで「放課後や休日を過ごすことができる場所」が37.1%となっている。
- 「利用したことはないが、あれば利用したい」との回答をみると、「勉強を無料で見てくれる場所」が17.5%で最も高く、次いで「夕食が無料か安い場所」が16.4%となっている。
- いずれかの施設・サービスを利用したことがある人にとって、利用したことで生じた変化をきいたところ、最も割合が高いのが「友だちが増えた」で37.1%である。次いで「生活の中で楽しみなことが増えた」で33.2%、「ほっとできる時間が増えた」で31.0%となっている。

図表 41 利用したことがある場所



図表 42 回答対象者：いずれかの施設・サービスを利用したことがある人
その場所を利用したことで生じた変化 [複数回答]

	人数	割合(%)
友だちが増えた	115	37.1
生活の中で楽しみなことが増えた	103	33.2
ほっとできる時間が増えた	96	31.0
勉強する時間が増えた	76	24.5
勉強がわかるようになった	54	17.4
気軽に話せる大人が増えた	47	15.2
栄養(えいよう)のある食事をとれることが増えた	15	4.8
その他	13	4.2
特に変化はない	90	29.0
回答者数	310	

